

(公財) 原子力環境整備促進・資金管理センター
第49回 最終処分積立金運用委員会 議事録

1. 日 時 2023年1月31日(火) 15:00～17:45

2. 場 所 東京都中央区明石町6-4
原子力環境整備促進・資金管理センター(第一・第二会議室)

3. 委員の現在数 5名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 谷川 寧彦
委 員 伊藤 敬介
委 員 大杉 謙一
委 員 関 雄太
委 員 山崎 元

以上 5名 出席

5. 議 題

- I. 2022運用年度最終処分積立金運用実績(2022年12月末) (報告)
- II. 2023運用年度最終処分積立金運用方針及び計画(案) (審議)

6. 開 会

事務局から、本日の第49回最終処分積立金運用委員会は、同運営規則第4条および第5条の規定による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。
続いて、高橋理事長が開会の挨拶を述べた。

7. 議事の概要

事務局から、上記5.の議題について、下記の通り説明を行った。

I. 2022運用年度最終処分積立金運用実績(2022年12月末)

第一種最終処分積立金の2022運用年度運用額は、積立金受入額から原子力発電環境整備機構への取戻額を差し引いた額に、当期の償還額と利息収入を加え、1,578億円を見込む。内訳としては、国債、政府保証債、地方債、事業債等とも、ほぼ計画通りの運用を達成できる見通し。

2022運用年度購入債券の平均利回りは、単年度の運用評価基準としての‘当年度の運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り’を上回る見通し。

第二種最終処分積立金の2022運用年度運用額は、積立金受入額から原子力発電環境整備機構への取戻額を差し引いた額に、当期の償還額と利息収入を加え、144億円を見込む。内訳としては、5年地方債、5年事業債等とも、ほぼ計画通りの運用を達成できる見通し。

※ 運用年度対象期間は2022年3月から2023年2月まで。

上記Ⅰ.の報告事項について意見交換を行った。

Ⅱ. 2023運用年度最終処分積立金運用方針及び計画（案）

第一種最終処分積立金及び第二種最終処分積立金ともに運用の基本方針である（１）長期的視野に立ち、安全・確実性を重視した運用（２）拠出金の算定の基礎となる割引率を目標とした運用収益の確保（３）市場への影響に配慮、に基づき従来通り前運用年度方針を踏襲し、第一種、第二種ともに、国債の購入を中心とする、2023運用年度最終処分積立金運用方針及び計画をとりまとめた。

上記Ⅱ.の提案について了承した。

8. 次回スケジュール

2023年5月下旬から6月上旬頃に開催したい。

9. 閉 会

<委員会で寄せられた意見>

Ⅰ. 2022運用年度最終処分積立金運用実績（2022年12月末）

○ 計画通りに運用されており、問題はない。

Ⅱ. 2023運用年度最終処分積立金運用方針及び計画（案）

○2023運用年度の運用計画について概ね、事務局案で問題はない。

○債券の購入時期については、相場動向を注視しつつも、従来通り、期初から可能な限り購入することでよい。

○第一種において、20年国債の購入計画について、2023運用年度においては問題はないが、金利変動によるポートフォリオに与える時価の変動リスクについては今後注視していく必要がある。

○第二種において、5年国債の購入計画について、2023運用年度においては問題ないと思われる。

以 上

事務局：資金管理業務部 TEL：03-6264-2215